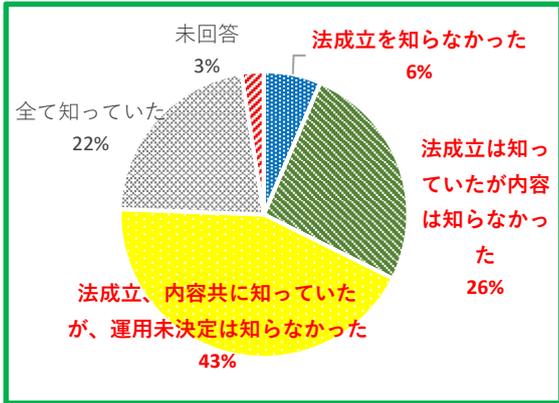


【設問 4-1】

昨年の通常国会で「定年延長制度」法案が成立し、令和 5 年度より 2 年に 1 才ずつ定年年齢が延長されることが決定しましたが、一方その運用制度については、現時点において何ら示されていません。このことを貴方は知っていましたか？

- ① 法成立を知らなかった
- ② 法成立は知っていたが内容は知らなかった
- ③ 法成立、内容共に知っていたが、運用未決定は知らなかった
- ④ 全て知っていた



2022年2月頃に、このアンケートが集約されました。その当時、80%近くの人が「法律が制定されたこと」「運用内容が未決定であること」を知らされていませんでした。

「定年延長制度」の内容も、またまた不透明！  
「定年延長制度」の内容も、またまた不透明！  
「定年延長制度」の内容も、またまた不透明！

国土交通省  
管理職ユニオンニュース

No371号  
2023年3月2日

【発行】  
国土交通省管理職ユニオン

【所在地】  
東京都千代田区霞ヶ関2-1-2 中央合同庁舎2号館  
TEL 03-3509-1138

【Email】  
k-union@aloha.ocn.ne.jp

【ホームページ】  
http://www.k-unionnetwork/

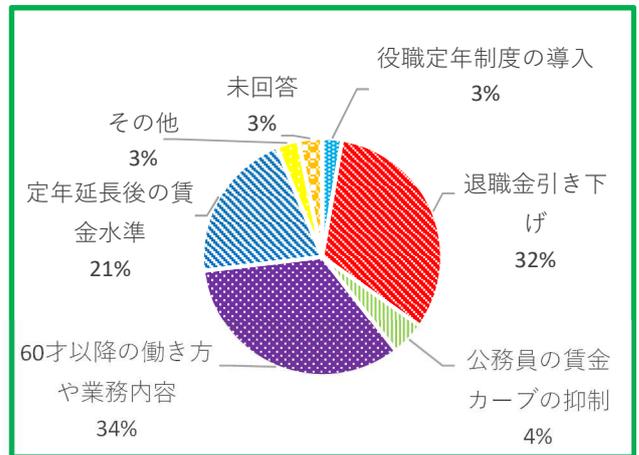
### 未だに具体化への努力が見られない！

「定年延長制度」は、来年度の令和 5 年度末退職予定の職員から適用され、本アンケートの取り組み以降に、対象者に対する意向確認はされましたが、未だに、どんなポストが用意され、どんな

【設問 4-2】

私たち管理職ユニオンは、今後の運用決定に対して意見を出して行きたいと考えています。貴方が定年延長制度導入で不安に思うことは何ですか。

- ① 役職定年制度の導入
- ② 退職金引き下げ
- ③ 公務員の賃金カーブの抑制
- ④ 60才以降の働き方や業務内容
- ⑤ 定年延長後の賃金水準
- ⑥ その他



な仕事をするようになるのか、当局の口からは示されていません。管理職ユニオンは、人事院本院、地方事務局や内閣人事局との交渉等を行っていますが、国土省が「定年延長者用のポストや級別定数」を要求しているか不明で、国土省は何ら具体化への努力姿勢が見られないのが実態です。

私たちは、当局から方針

が示されないこと  
によって、多くの定  
年退職予定者が、待  
ちきれず「省外」へ  
流出することは  
様々な面で損失と  
弊害を生むものと  
考えています。

## 「退職金の引き下げ」「60歳以降の働き方」「賃金水準」に退職後の不安が…



## 退職前職員の不安を解消する努力を!

アンケートの記述意見では、年金支給のない65歳までを如何に過ごすかの不安や、一部に若手職員同様の働きが求められる再任用の実態から、体力とモチベーション維持に対する不安が具体的に出不安されています。また、「定年延長」が、職場の定員数を使用する事で新規採用職員の採用の削減を危惧する声もあります。

地方整備局当局は、定年延長者の意向を把握し、真に長年の知識と経験が活かせるポストを創出し、「適材適所」のポスト配置を具体的に検討すべきです。また、国交省は、新規採用の抑制とならないよう職員定数を確保し、モチベーション維持につながるポストを要求すべきです。

## 管理職員業務実態アンケートでの記述意見



### ●先が見えない、崩れる生涯設計

- ①年金支給年齢がこれ以上引き上げられないか心配。退職金を当てにしてローン等組んでいるが定年延長により退職金が減らないか心配。
- ②年金制度を昔に戻せとまでは言わないが、今まで払った分が適正に戻ってくる年金制度であって欲しい。その上で仕事中心の生き方から趣味や自治会等社会生活中心の生活へ転換したい。
- ③今は65才に向かっているがそのうち70才とか言い出しそうで、結局どこまでという明確なゴールが無いから老後設計が立てられない。

### ●この先、収入はどうなるのか？

- ①定年を延長するのであれば55歳からの昇給延伸をなくすよう要求して頂きたい。
- ②定年延長制度導入後の運用制度が示されていないため、退職金の引き下げや定年延長後の賃金抑制など、全ての面で不安がある。
- ③万が一、寝たきりになってしまった場合、介護は年金だけでまかなえるか解らない。
- ④地方測量部の再任用者は何名まで受け入れ可能なのか。

### ●体力、モチベーションの維持に不安

- ①モチベーションの維持と負荷が増えることに不安がある。若手職員と違って体力的な面でも頭の回転でもかなり低下している。職員が減少していく中で60歳以上の職員に若手と同じ働き方を求められても対応できない。
- ②働いても、本来もらえた年金額と大差なければ働く意欲がわかない。
- ③ようやく、社会活動を終えて、元気なうちに第2の人生スタートと思っていたのですが、定年延長とはがっかりです。後先短いのにまだ働けとは、残りの人生有意義に使いたいです。

### ●誰もが老後を安心してける制度に

- ①結局死ぬまで働けということでしょう。
- ②若いときに考えた将来設計が崩れるような退職金の目減り等が年々進められており、退職後の生活を維持出来るか不安を持っている。
- ③現在再任用されている方が、63歳くらいから体力、気力が続かないと、辞められた先輩を見ると、60歳定年制で年金をきちんと支払うよう当初の制度に戻すようにして欲しい。
- ④60歳以降の状況は個人により様々なため、定年制、年金、社会保障、賃金とか個別に議論しても抜本的な解決にはならないと思う。誰もが老後安心して生活できる抜本的な年金制度と政治こそが、重要だと思う。

